



パワード・スピーカー

# EON600 Series

## 取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。  
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

## 安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。



### 警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



### 注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。



### 警告

- AC100V 50/60Hz の電源で使用してください。これ以外の電源では火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外のものを使用すると火災の原因となります。また、電源コードは他の機器には使用しないでください。
- 電源コードの上に重い物を乗せたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだら、ただちに使用を中止して販売店に交換をご依頼ください。
- 確実にアース接続をしてください。また、アース線の着脱は電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。感電の原因となります。
- 水に入れたり、濡らさないでください。また、水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。火災や感電の原因となります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損したなどの異常がある時は、ただちに電源コードをコンセントから抜き、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。
- 長時間使用しない時や落雷の恐れがある時は、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因となります。また、雷が鳴り出したら金属部分や電源プラグには触れないでください。
- ポールマウントする場合や吊り下げて使用する場合は、十分な転倒 / 落下防止策を施し、定期的に保守点検を行ってください。転倒 / 落下によるけがや故障の原因となります。設置場所 / 器具の強度不足や設置方法の不備、経年劣化などが原因で発生した事故に関しては、弊社は一切の責任を負いかねます。



### 注意

- 必要な電流容量を安全に供給できるように、適切な電源回路を用意してください。
- 事前に機器の重量を確認し、けがをしないように持ち運びや設置を行ってください。
- 斜面や不安定な場所に設置しないでください。転倒 / 落下によるけがや故障の原因となります。また、滑りやすい面に置くと音の出力エネルギーによってスピーカーが動いてしまう恐れがあります。ゴムマットを下に敷くなどの滑り止め対策を施してください。
- 以下のような場所に設置しないでください。火災や故障の原因となります。
  - ・ 直射日光の当たる場所
  - ・ 温度の特に高い場所、または低い場所
  - ・ 湿気の多い場所
  - ・ ほこりの多い場所
  - ・ 振動の多い場所
  - ・ 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 通気性の良い場所に設置し、通気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。
- 機器の移動は、電源コードや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがや故障、ケーブル破損の原因となります。
- 配線は、全ての機器の電源コードをコンセントから抜き、取扱説明書に従って正しく行ってください。電源コードを差し込んだまま配線すると、感電する恐れがあります。また、誤配線によるショートなどは火災の原因となります。
- 濡れた手で、電源コードや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。また、機器の電源を ON にする時は、スピーカーの破損を防ぐために一番最後に本機の電源を入れてください。電源を OFF にする時は、一番最初に電源を切ってください。
- 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。
- 過大入力を加えないでください。また、長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となります。

## 使用上のご注意

---

### 電波に関する注意

- ・ 本機と端末との Bluetooth 接続による通信可能な距離は約 9m です。2.4GHz 帯の周波数を使用しているため、「本機と端末との間に障害物がある場合」「本機や端末を直接地面や床に置いた場合」「雨天時の屋外で使用した場合」「他の電波を発信する機器が使用されている場所で使用した場合」では、通信距離が短くなったり、通信が途切れる可能性があります。上手く動作しない場合は、障害物を取り除くか、使用場所を変更してください。
- ・ 本機は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は不要です。ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - ・ 本機を分解 / 改造すること。
  - ・ 本機に貼ってある証明番号が印刷されたラベルをはがすこと。
- ・ 本機の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局（以下「他の無線局」）が運用されています。他の無線局との電波干渉を防止するために、以下の事項に注意してご使用ください。
  1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
  2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本機の使用場所を変えるか、運用を停止してください。
  3. 不明な点、その他お困りのことが起きたときは、以下の連絡先へお問い合わせください。

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

カスタマーサポート TEL : 03-5783-3110

## 目次

---

安全上のご注意 .....	P.2
使用上のご注意 .....	P.3
目次.....	P.4
主な特徴 .....	P.5
梱包内容の確認.....	P.5
各部の名称と機能.....	P.6
設置.....	P.8
セットアップ.....	P.9
専用アプリケーション「EON Connect」によるコントロール	
「EON Connect」について .....	P.10
ダウンロードとインストール.....	P.10
操作画面の詳細.....	P.11
本機との接続.....	P.15
ファームウェアのアップデート.....	P.16
工場出荷時の状態へのリセット.....	P.17
トラブルシューティング.....	P.18
ブロックダイアグラム .....	P.19
仕様.....	P.20

## 主な特長

EON600 Series は、設置・運搬が容易なポータブル・パワード・スピーカーとしての利点を受け継ぎつつも、各部の設計を一から見直し音質の飛躍的な向上に成功。カバーエリアの隅々にまでクリアで均一なサウンドを出力できるため、今まで音質に妥協をしていた仮設 PA でも高品位な SR を実現可能です。多彩な機能により、現場でのシステム構築も素早く簡単に行えます。フルレンジ 3 モデル、サブウーファー 1 モデルを用意しました。

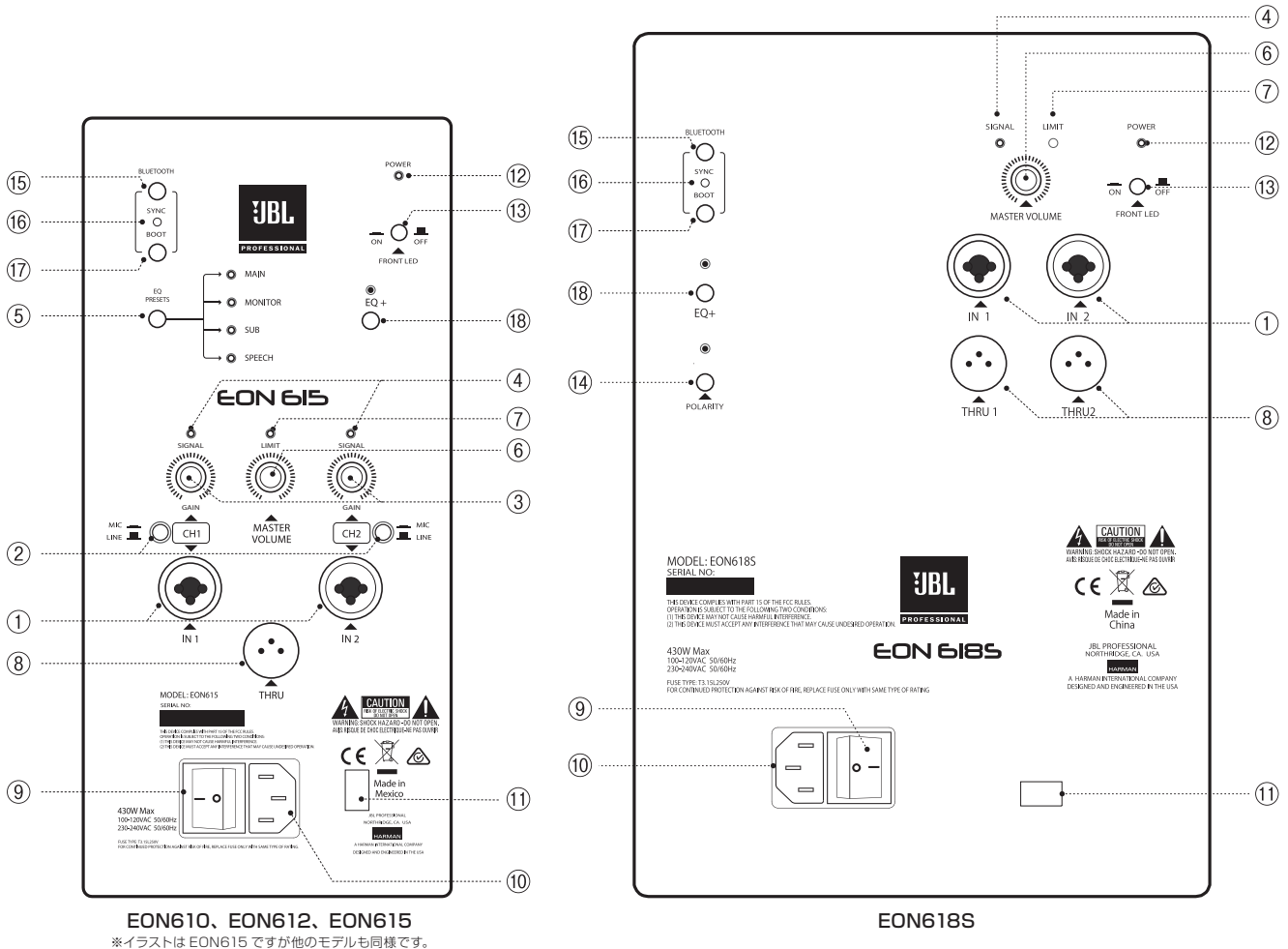
- 高域にはハイエンドのスタジオモニターにも採用されている JBL 独自の“イメージコントロールウェーブガイド”を搭載。カバーエリアの全域に渡ってクリアで均一なサウンドを出力します。細部の描写力も高まり、高出力、低歪率の高域ドライバーとあいまって、クラスを超えた高品位な音質を実現しました。
- 中低域を担当する低域ドライバーは、口径が大きくなるほど中域の指向角度が狭くなる傾向があり、カバーエリアの外側では帯域間で音質に不整合が発生していました。その問題を解決するために、EON612、EON615 には新開発のウェーブガイド“パターンコントロールアパチャー”が搭載されています。中域の指向角度を大きく拡張することで、エリア全域で高域～低域をなめらかに接続。聴く位置によらず、継ぎ目のない極めて自然な音質を実現しました。
- 新たに開発された低域ドライバーは、歪みのないクリアなサウンドを高音圧で出力。キャビネット容積も十分確保しているため量感も豊かです。
- 高効率なクラス D のパワーアンプを搭載。さらにフルレンジ・モデルはバイアンプ駆動で、ドライバーの性能を十二分に引き出します。
- XLR と標準フォーンプラグに対応した 2 系統の入力端子を装備。フルレンジ・モデルはミキサー機能を内蔵しており、マイク/ライン・レベルの切り替えも可能です。信号を外部に出力するための THRU 端子も、全てのモデルに装備しています。
- フルレンジ・モデルは、用途に応じた最適なイコライジングがボタン一つで適用できる、EQ プリセットボタンを搭載。「メイン」「モニター」「スピーチ」「サブウーファー併用」の 4 種類から選択できます。EON618S のプリセット（クロスオーバー周波数）は「EON Connect」から切り替え可能です。
- EON600 Series をワイヤレスで制御するための、iOS/Android OS 端末用アプリケーション「EON Connect」を用意しました。Bluetooth で接続した端末から、EQ プリセットの切り替えやマスターボリュームの調整はもちろん、本体では操作できない 3 バンド・パラメトリック EQ、高域/低域のシェルビング EQ (EON618S を除く)、ディレイも設定可能。1 つの端末から 4 台までのスピーカーを個別に制御でき、スピーカー間で設定の内容の共有もできるため、セットアップが効率的に行えます。「EON Connect」は App Store や Google play から無償でダウンロードできます。
- 全モデルにポールソケットを装備。EON618S はフルレンジ・スピーカーを上部に設置できます。
- フルレンジ・モデルは、横向きに置いてステージモニターとしても使用可能です。サスペンション・ポイントを装備し吊り下げにも対応します。
- 小型・軽量で仮設 PA に最適です。複数のハンドルを装備し、運搬も容易に行えます。
- フルレンジ・モデルの上面と底面には、同一機種と連結するための凹凸が設けられており、積み重ねて運搬・保管する際の安定性が向上しました。

## 梱包内容の確認

パッケージに次の物が入っていることを確認してください。

- ・ 本体
- ・ 電源コード
- ・ 和文取扱説明書
- ・ 保証書

## 各部の名称と機能



EON610, EON612, EON615

\*イラストは EON615 ですが他のモデルも同様です。

EON618S

① **IN 端子** : バランス仕様 XLR 3 ピンと標準フォンプラグに対応した複合型入力端子です。EON610、EON612、EON615 は、MIC/LINE ボタンで入力可能な信号のレベルを切り替えられます。

② **MIC/LINE ボタン** (EON610、EON612、EON615 のみ) : IN 端子に接続する機器に応じて、入力可能な信号のレベルをマイク・レベル (MIC) またはライン・レベル (LINE) に切り替えるボタンです。マイクロホンに接続する場合は MIC に、音楽プレーヤー、電子楽器、ミキサーなど、ライン・レベルの機器を接続する場合は LINE に設定してください。

**備考** ・ 誤操作防止のため、MIC/LINE ボタンは奥まった場所に取り付けられています。先の細いドライバーなどで押し替えてください。

③ **GAIN つまみ** (EON610、EON612、EON615 のみ) : IN 端子に入力された信号のゲインを調整するつまみです。

④ **SIGNAL LED** : IN 端子への信号の入力状況を示す LED です。信号が入力されている場合に緑色に点灯します。

⑤ **EQ PRESETS ボタン** (EON610、EON612、EON615 のみ) : 内蔵の EQ プリセットを切り替えるボタンです。EQ プリセットを使えば、用途に応じた最適なイコライジングがボタン 1 つで適用できます。プリセットは 4 種類あり、現在選択されているプリセットにはボタン右横の LED が緑色に点灯します。以下を参考にして、最適なプリセットを選択してください。EON618S の EQ プリセットは「EON Connect」からのみ操作できます。

**MAIN** : メインスピーカーとして使用し、音楽ソースとスピーチ / アナウンスの両方を再生する場合に選択してください。

**MONITOR** : ステージモニターとして使用する場合に選択してください。

**SUB** : サブウーファーを併用する場合に選択してください。100Hz のハイパスフィルターが設定されます。

**SPEECH** : メインスピーカーとして使用し、スピーチ / アナウンスのみを再生する場合に選択してください。

- ⑥ **MASTER VOLUME つまみ**：最終的な信号の出力レベルを調整するつまみです。
- ⑦ **LIMIT LED**：信号の出力状況を示す LED です。信号がクリップするレベルに近づくと赤色に点灯します。頻繁に点灯する場合は、GAIN つまみ (EON610、EON612、EON615 のみ) や MASTER VOLUME つまみを下げてください。
- ⑧ **THRU 端子**：バランス仕様 XLR 3 ピンの出力端子です。EON610、EON612、EON615 は、MIC/LINE ボタンと GAIN つまみの間の信号を出力し、2 系統ある IN 端子の両方に信号が入力されている場合はモノラルにミックスされます。EON618S は、IN 端子に入力直後の信号を出力します。
- 備考** ・ EON610、EON612、EON615 と EON618S を組み合わせて使用する場合、EON610、EON612、EON615 の THRU 端子を EON618S の IN 端子に接続すれば、配線が簡単に行えます。
- ⑨ **電源スイッチ**：電源の ON/OFF スイッチです。
- ⑩ **電源端子**：付属の電源ケーブルを接続します。
- ⑪ **電源電圧スイッチ**：電源の電圧を選択するスイッチです。115V に設定してください。
- ⑫ **POWER LED**：電源の ON/OFF 状態を示す LED です。本機に電源が供給されていて、電源スイッチが ON の場合に白色に点灯します。POWER LED は前面の下部にも装備されています。
- ⑬ **FRONT LED ボタン**：前面の下部にある POWER LED の点灯を ON/OFF するボタンです。前面の POWER LED は、本機に電源が供給されていて、電源スイッチと FRONT LED ボタンが ON の場合に白色に点灯します。
- ⑭ **POLARITY ボタン (EON618S のみ)**：位相反転の ON/OFF ボタンです。ON にすると 180° 位相が反転し、ボタン上の LED が緑色に点灯します。

★ 以下の項目は、iOS/Android OS 端末用アプリケーション「EON Connect」を使用して本機を操作するために使用します。アプリケーションの詳細は P.10 の「専用アプリケーション「EON Connect」によるコントロール」を参照してください。

- ⑮ **BLUETOOTH SYNC ボタン**：Bluetooth 機能を有効にするためのボタンです。本機と「EON Connect」をインストールした端末を Bluetooth で接続する場合は有効にしてください。
- ⑯ **BLUETOOTH LED**：Bluetooth 機能の動作状態を示す LED です。Bluetooth 機能が有効になっている場合に青色に点灯します。
- ⑰ **BLUETOOTH BOOT ボタン**：Bluetooth 機能を無効にするためのボタンです。本機と「EON Connect」をインストールした端末を Bluetooth で接続しない場合は無効にしてください。

**備考** ・ 意図しない端末との接続を防ぐために、「EON Connect」を使用して本機を操作しない場合は Bluetooth 機能を無効にしてください。  
 ・ 既に「EON Connect」をインストールした端末が接続されている場合は、BLUETOOTH BOOT ボタンを押しても Bluetooth 機能を無効にできません。無効にする場合は、「EON Connect」で Bluetooth 接続を切断したあとに、BLUETOOTH BOOT ボタンを押してください。

- ⑱ **EQ + ボタン**：内蔵メモリーに保存されている「EON Connect」で設定した信号処理を、端末を使わず本機のみで ON/OFF するためのボタンです。ON にするとボタン上の LED が緑色に点灯します。ON/OFF を切り替えるときは、ボタン上の LED が点灯または消灯するまでこのボタンを押し続けてください。ON/OFF したい信号処理は、「EON Connect」の EQ + MAPPING ボタンで設定します。EQ + MAPPING ボタンで選択した信号処理は、EQ + ボタンを ON にしたときは有効になり、OFF にしたときは無効になります。EQ + ボタンで ON/OFF できる信号処理は、出力レベル、3 バンド・パラメトリック EQ、高域 / 低域のシェルビング EQ です。ディレイは、EQ + ボタンの影響を受けません。

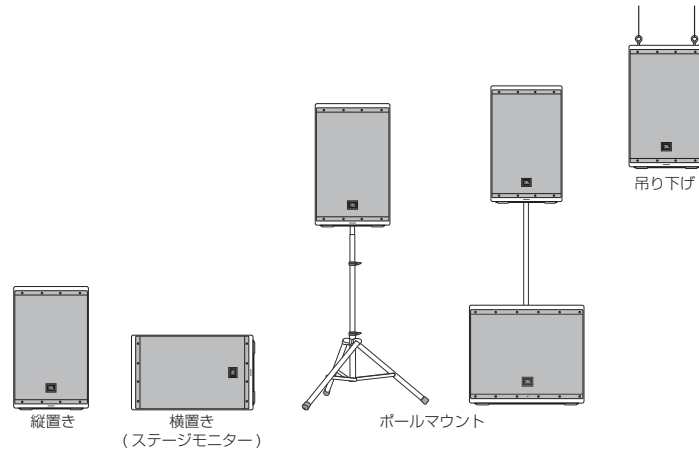
**注意** ・ EON610、EON612、EON615 では、ボタン上の LED が点灯または消灯する前に EQ + ボタンを離すと、EQ PRESETS ボタンが動作しなくなります。その場合は、ボタン上の LED が点灯または消灯するまで再度 EQ + ボタンを押し続けてください。EQ PRESETS ボタンが復旧します。  
 ・ EQ + ボタンで「EON Connect」の出力レベルの設定を ON/OFF できる状態のときに実際に EQ + ボタンを ON/OFF すると、音量が大きく変化する可能性があります。EQ + ボタンを ON/OFF するときは MASTER VOLUME つまみの設定に注意してください。

**備考** ・ 3 バンド・パラメトリック EQ や高域 / 低域のシェルビング EQ、ディレイは本機では操作できません。「EON Connect」をインストールした端末でのみ操作できます。



## 設置

EON610、EON612、EON615 は、縦置きのほか、横向きに置いてステージモニターとして使用したり、サスペンション・ポイントを使用した吊り下げにも対応します。また、全てのモデルは、ポールソケットを使用したポールマウントが可能です。以下の点に注意して設置を行ってください。



### 設置場所に関する注意点

- ・メインスピーカーとして使用する場合は、本機をまっすぐ立て、できるだけ観客の頭上より高い位置 (60 ~ 120cm 上方) に 高域ドライバーがくるように設置してください。低い位置に設置すると後方の観客に良い音を届けることができません。
- ・ステージモニターとして使用する場合は、横向きにして置きます。この方法で設置すると後方に転がりやすくなります。注意してください。
- ・ハウリングを防ぐため、マイクロホンの位置よりも観客寄りに置きます。スペースに制約がありマイクロホンよりも後方に置かなければならない場合は、本機の正面をマイクロホンの方に向けないように設置してください。
- ・ターンテーブルのトーンアームが本機の出力を拾うと、増幅されてハウリングが起きる可能性があります。ターンテーブルから離して設置してください。DJ ブースで使用する場合は、重くて硬いターンテーブル・ベースやショックマウントを使用すればハウリングを抑制できます。

### ポールソケットを使用してポールマウントする場合の注意点

- ・ポールマウントする場合は、スタンドやポールを奥までしっかりとポールソケットに差し込んでください。また、EON610、EON612、EON615 のポールソケットにはポール固定ねじがあります。設置する前にポール固定ねじを十分にゆるめ、スタンドやポールをポールソケットに入れた後、ねじでしっかりと固定してください。
- ・本機の重量を 1 人で確実に支えられる場合を除き、スタンドまたはポールへの設置作業は 2 人以上で行ってください。
- ・本機の重量を支えられる耐荷重を持つスタンドまたはポールを使用してください。
- ・スタンドやポールは使用前にチェックし、摩耗、破損、部品の欠落が見つかった場合は使用しないでください。
- ・スタンドや、ポールを立てるサブウーファーは、平坦で安定したところに置いてください。
- ・スタンドの脚は完全に開いて使用してください。
- ・屋外で使用する場合は、風で倒れないように対策を施してください。また、本機に垂れ幕などを取り付けしないでください。
- ・出演者や観客が本機やスタンドに触れないように設置してください。

### サスペンション・ポイントを使用して吊り下げる場合の注意点

- ・吊り下げる作業は、安全なリギングに関する研修を積んだ適切な作業員が行ってください。
- ・上部にある 2 点のサスペンション・ポイントを両方とも必ず使用し、それぞれに荷重が均等にかかるようにしてください。背面にあるサスペンション・ポイントは、傾斜角度を調整するためのものです。
- ・吊り下げる場所、吊り下げに使用するワイヤーやアイボルトなどが、本機の重量に十分耐えられる強度があるか確認してください。アイボルトは、JBL PROFESSIONAL の「229-00009-01 (M10 × 35mm アイボルト × 3 とワッシャー × 3 のセット)」の使用を推奨します。
- ・落下防止のため、定期的に保守点検を行ってください。

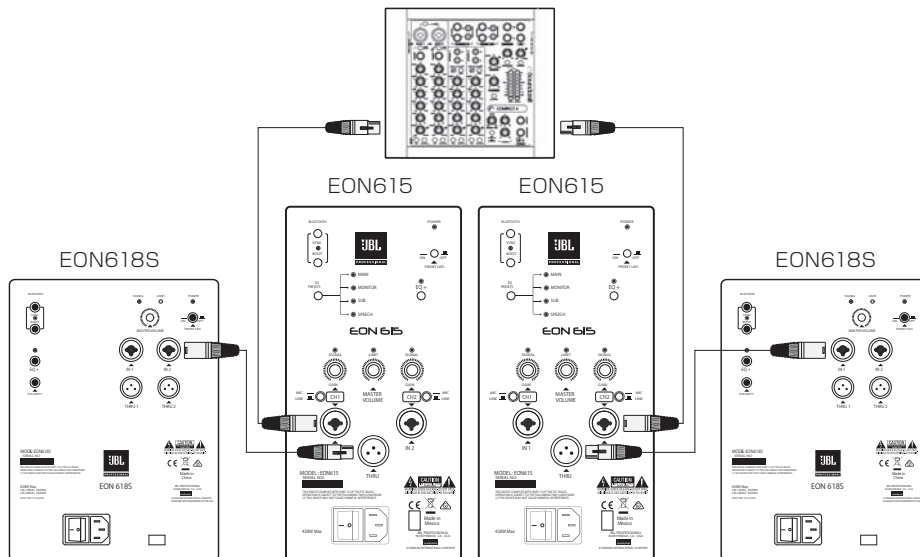


# セットアップ

## 接続と電源の ON

1. 電源スイッチが OFF の状態で、GAIN つまみや MASTER VOLUME つまみが最小になっていることを確認してください。
2. マイクホン、音楽プレーヤー、電子楽器、ミキサーなどを IN 端子に接続します。EON618S を併用する場合、EON610、EON612、EON615 の THRU 端子を EON618S の IN 端子に接続すると、配線が簡単に行えます。詳細は「EON615 と EON618S の接続例」をご覧ください。
3. EON610、EON612、EON615 の IN 端子に入力可能な信号レベルを MIC/LINE ボタンで設定します。マイクホンを接続している場合は MIC に、音楽プレーヤー、電子楽器、ミキサーなどを接続している場合は LINE に設定してください。
4. 電源電圧スイッチが 115V に設定されているのを確認後、電源コードを電源端子に接続します。
5. 電源コードのもう一方のプラグを電源コンセントに接続します。
6. 音楽プレーヤー、電子楽器、ミキサーなどの電源を ON にします。
7. 本機の電源スイッチを ON にします。

**備考** ・電源スイッチを ON にして使用可能な状態になるまで、約 10 秒程度の時間が掛かります。POWER LED が点灯したら、使用可能な状態です。



EON615 と EON618S の接続例

## 音質 / 音量の調整

1. EON610、EON612、EON615 の EQ PRESETS ボタンで EQ プリセットを選択し、用途に応じたイコライジングを適用します。ボタンを押すたびに EQ プリセットが切り替わります。ステージモニターとして使用する場合は MONITOR、サブウーファーを併用する場合は SUB、メインスピーカーとして使用し、用途がスピーチやアナウンスのみの場合は SPEECH、それ以外の場合は MAIN を選択してください。
2. 音楽プレーヤー、電子楽器、ミキサーなどの出力レベルを、実際に使用する時の状態に設定します。
3. MASTER VOLUME つまみを中央付近 (12 時の位置) まで上げます。
4. 出力音を聴きながら、EON610、EON612、EON615 の GAIN つまみを希望の音量になるまで上げていきます。2 系統ある IN 端子の両方に信号が入力されている場合は、各入力のバランスを調整してください。
5. 最終的な音量を MASTER VOLUME つまみで調整します。

## 電源の OFF

1. GAIN つまみや MASTER VOLUME つまみを最小にします。
2. 音楽プレーヤー、電子楽器、ミキサーなどの出力レベルを最小にします。
3. 本機の電源スイッチを OFF にします。
4. 音楽プレーヤー、電子楽器、ミキサーなどの電源を OFF にします。

# 専用アプリケーション「EON Connect」によるコントロール

## 「EON Connect」について

「EON Connect」は本機をワイヤレスでコントロールするための、iOS/Android OS 端末用アプリケーションです。App StoreやGoogle playで、無償でダウンロードできます。本機と「EON Connect」をインストールした端末をBluetoothで接続すれば、端末からEQプリセットの切り替えや出力レベルの調整はもちろん、本機では操作できない3バンド・パラメトリックEQや高域/低域のシェルピングEQ、ディレイも設定できます。1つの端末から4台までのEON600 Seriesを制御でき、機器間で設定の内容を共有することもできます。設定の内容は4つまで端末内に保存可能で、本機のファームウェアのアップデートも行えます。「EON Connect」を使用するためには、以下の動作環境を満たす端末が別途必要です。

### ■ iPad、iPod touch、iPhone

OS：iOS 7.0以降

対応機種：iPad 2以降、iPad mini、iPhone 4以降、iPod touch 第5世代以降

※アプリケーションをダウンロードするためのインターネット環境とBluetoothによる通信機能が必要です。

### ■ Android

OS：Android OS 4.4以降

※アプリケーションをダウンロードするためのインターネット環境とBluetoothによる通信機能が必要です。

本機と端末を接続し、「EON Connect」で信号処理の設定を変更すると、その内容が即座に本機に反映されます。同時に本機の内蔵メモリーにも上書きされるため、端末との接続を切断した後も「EON Connect」の信号処理の設定は有効です。「EON Connect」の信号処理の設定を端末を使わずに本機のみでON/OFFしたい場合は、EQ + MAPPING ボタンとEQ + ボタンを使用します。EQ + MAPPING ボタンで選択した信号処理は、EQ + ボタンをONにしたときは有効になり、OFFにしたときは無効になります。EQ + ボタンでON/OFFできる信号処理は、出力レベル、3バンド・パラメトリックEQ、高域/低域のシェルピングEQです。ディレイは、EQ + ボタンの影響を受けません。ディレイをOFFにしたい場合は、「EON Connect」で設定を変更する必要があります。

### 備考

- ・ EQ + MAPPING ボタンで設定を行っていない場合は、本機だけで「EON Connect」の信号処理の設定を無効にできません。工場出荷時の状態へのリセットを行えば無効にできますが、内蔵メモリーに保存されている「EON Connect」の信号処理の設定は消去されます。工場出荷時の状態へのリセットについてはP.17の「工場出荷時の状態へのリセット」をご覧ください。
- ・ 高域/低域のシェルピングEQはEON618Sでは利用できません。

## ダウンロードとインストール

iOSの端末を使用する場合はApp Storeに、Android OSの端末を使用する場合はGoogle playにアクセスし、「EON Connect」と検索してください。検索結果に表示された「EON Connect」をダウンロードおよびインストールします。

## 操作画面の詳細

「EON Connect」には、大きく分けて「ホーム画面」と「コントロール画面」の2つの操作画面があります。以下に各画面の詳細について記載します。

### ■ ホーム画面

起動時に表示され、スピーカーの接続 / 切断や接続されたスピーカーの確認 / 名称変更などを行います。画面右上に常に表示されているホームボタンで、どこからでもこの画面に戻ることができます。



- ① **+ボタン**：スピーカーをBluetoothで接続するためのボタンです。接続方法については P.15 の「本機との接続」を参照してください。
- ② **-ボタン**：スピーカーとのBluetooth接続を切断するためのボタンです。切断したいスピーカーが割り当てられているスピーカーボタンにタッチして青色に表示させたあとにこのボタンにタッチすると、「Please confirm the removal of this speaker」と表示されるので [Ok] にタッチしてください。その後「EON speaker successfully removed from network」と表示されるので再び [Ok] にタッチすると切断が完了します。
- 備考** ・-ボタンは、スピーカーが割り当てられていないスピーカーボタンではグレーに表示されてタッチできません。
- ③ **確認ボタン**：Bluetooth接続されているスピーカーを確認するためのボタンです。スピーカーが割り当てられているスピーカーボタンにタッチして青色に表示させたあとにこのボタンにタッチすると、割り当てられているスピーカーの BLUETOOTH LED が点滅します。もう一度タッチすると通常の点灯に戻ります。
- 備考** ・確認ボタンは、スピーカーが割り当てられていないスピーカーボタンではグレーに表示されてタッチできません。
- ④ **名称変更ボタン**：Bluetooth接続されているスピーカーの名称を変更するためのボタンです。スピーカーが割り当てられているスピーカーボタンにタッチして青色に表示させたあとにこのボタンにタッチするとキーボードが現れるので、新しい名称を入力して [Ok] にタッチしてください。新しい名称がスピーカーボタンに表示されます。
- 備考** ・名称変更ボタンは、スピーカーが割り当てられていないスピーカーボタンではグレーに表示されてタッチできません。  
・変更された名称は内部には保存されません。接続を切断すると元の名称に戻ります。
- ⑤ **再接続ボタン**：スピーカーとのBluetooth接続が意図せずに切断されてしまったときに、再度接続を試みるためのボタンです。Bluetoothの電波が途切れてしまったときなどにこのボタンにタッチすると、切断される前に接続していたスピーカーに再度接続を試みます。
- ⑥ **スピーカーボタン**：Bluetooth接続されているスピーカーを管理するためのボタンです。+ボタンで接続すると、このボタンにスピーカーが割り当てられます。4つのボタンがあり、ボタン1つにつき1台のスピーカーを割り当てることができます。スピーカーボタンにタッチして青色に表示させたあとにもう一度タッチすると、そのスピーカーを制御する「コントロール画面」に移動します。ボタンの中央には、接続されているスピーカーの名称が、その下には接続の状態が表示されます。表示による接続状態の違いは以下の通りです。
- OPEN**：スピーカーが接続されていない状態です。  
**Online**：スピーカーが接続されている状態です。  
**Offline**：接続されていたスピーカーが、何らかの理由で切断された状態です。
- ⑦ **システム管理ボタン**：ネットワークやアプリケーションに関する情報の表示、デバッグの保存などを行うシステム管理画面に移動するためのボタンです。
- ⑧ **ホームボタン**：ホーム画面に戻るためのボタンです。ホームボタンはホーム画面以外の画面が表示されているときでも常に右上に表示されており、タッチすることでどこからでもホーム画面に戻ることができます。

## ■ コントロール画面

ホーム画面のスピーカーボタンにタッチして青色に表示させたあとにもう一度タッチすると表示され、接続されているスピーカーの制御を行います。コントロール画面には操作内容の異なる「MAIN」「EQ」「CONFIGURATION」の3つの画面があります。

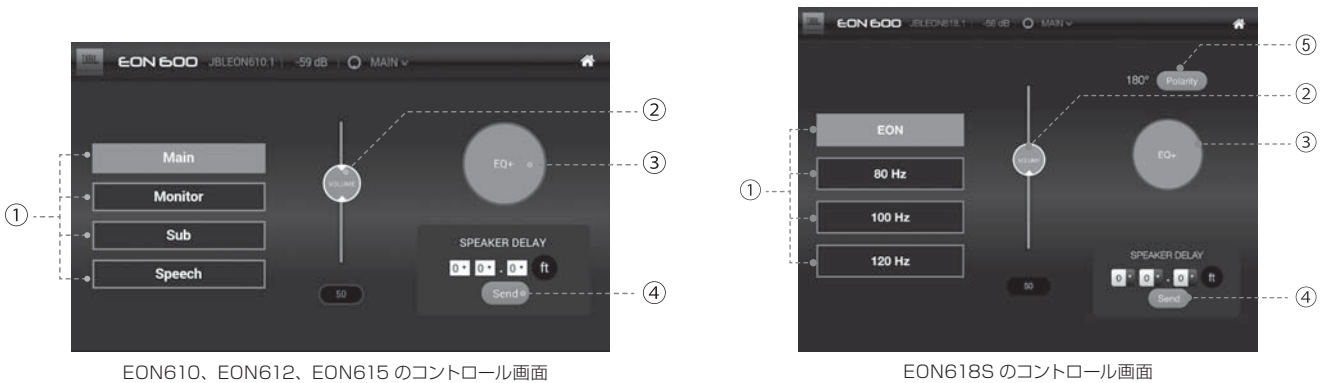
画面上部の表示やボタンは全てのコントロール画面で共通で、左から「現在制御しているスピーカーの名称」「端末とスピーカーのBluetooth接続の強度」「[MAIN]「EQ」「CONFIGURATION」の画面切替ボタン」「ホームボタン」の順に配置されています。

**備考** ・「端末とスピーカーのBluetooth接続の強度」は、-84dB以上では緑色、-85~-89dBではオレンジ色、-90dB以下では赤色で表示されます。端末での操作中に-90dBを下回らないようにしてください。-90dBを下回ると接続が切断される可能性があります。



## MAIN

この画面では、「EQプリセットの切り替え」「出力レベルの調整」「EQ+ボタンのON/OFF」「ディレイの設定」を行います。



- ① **EQプリセットボタン**：スピーカーにあらかじめ搭載されているEQプリセットを、遠隔操作で切り替えるためのボタンです。EON610、EON612、EON615は、本体のEQ PRESETS ボタンで切り替えることもできます。EON618Sは本体では操作できません。EON610、EON612、EON615のEQプリセットの詳細はP.6をご覧ください。EON618Sには4つのEQプリセットが用意されています。EON610、EON612、EON615と組み合わせる場合は「EON」を、それ以外のスピーカーと組み合わせる場合は、クロスオーバー周波数に合わせて「80Hz」「100Hz」「120Hz」のいずれかを使用してください。

**備考** ・EON610、EON612、EON615では、「EON Connect」の3バンド・パラメトリックEQや高域/低域のシェルビングEQを使う場合は、EQプリセットをMain(本体表記はMAIN)に設定することをお勧めします。Mainは、EQによる調整が行いやすいフラットに近い周波数特性になっています。

- ② **VOLUMEフェーダー**：スピーカーのMASTER VOLUMEつまみと同様、最終的な信号の出力レベルを調整するためのフェーダーです。フェーダーの下にある数値にタッチすることで、キーボードで数値を入力することもできます。VOLUMEフェーダーを使用する場合は、事前にスピーカーのMASTER VOLUMEつまみを右に回し切りしてください。

- ③ **EQ+ボタン**：スピーカーのEQ+ボタンを遠隔操作するためのボタンです。このボタンを操作するとスピーカーのEQ+ボタン上のLEDも連動して点滅します。

**注意** ・EQ+ボタンで「EON Connect」の出力レベルの設定をON/OFFできる状態のときに実際にEQ+ボタンをON/OFFすると、音量が大きく変化する可能性があります。EQ+ボタンをON/OFFするときは、スピーカーのMASTER VOLUMEつまみの設定に注意してください。

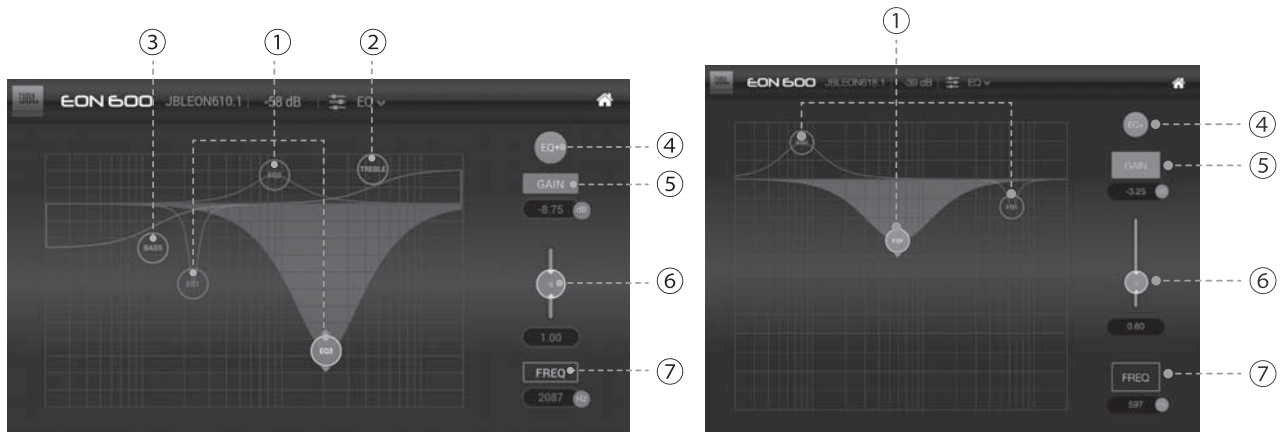
- ④ **SPEAKER DELAY Send ボタン**：ディレイをスピーカーに適用するためのボタンです。最大20フィート(約6m)までのディレイを設定できます。適用する場合は、ボタンの上にあるボックスにタッチしてフィート数を設定したあと、このボタンにタッチしてください。

**備考** ・ディレイの設定はEQ+ボタンのON/OFFに関係なく、SPEAKER DELAY Send ボタンにタッチするだけでスピーカーの内蔵メモリーに保存されます。ディレイをOFFにしたい場合は、フィート数を0にしてSPEAKER DELAY Send ボタンにタッチしてください。

- ⑤ **POLARITY ボタン** (EON618Sのみ)：スピーカーのPOLARITYボタンを遠隔操作するためのボタンです。このボタンを操作するとスピーカーのPOLARITYボタン上のLEDも連動して点滅します。

## EQ

この画面では、「パラメトリック EQ の設定」「高域シェルピング EQ の設定」「低域シェルピング EQ の設定」を行います。EON618S で設定できるのはパラメトリック EQ のみです。



EON610、EON612、EON615 のコントロール画面

EON618S のコントロール画面

- ① **EQ1、EQ2、EQ3 ポイント** : パラメトリック EQ のゲインやカットオフ周波数を調整するためのポイントです。GAIN ボタンにタッチしたあとにこのポイントにタッチしてそのまま上下に動かすことでゲインを調整できます。また、FREQ ボタンにタッチしたあとにこのポイントにタッチしてそのまま左右に動かすことでカットオフ周波数を変更できます。
- ② **TREBLE ポイント** (EON610、EON612、EON615 のみ) : 高域シェルピング EQ のゲインを調整するためのポイントです。このポイントにタッチしてそのまま上下に動かすことでゲインを調整できます。
- ③ **BASS ポイント** (EON610、EON612、EON615 のみ) : 低域シェルピング EQ のゲインを調整するためのポイントです。このポイントにタッチしてそのまま上下に動かすことでゲインを調整できます。
- ④ **EQ +マーク** : コントロール画面の「MAIN」にある EQ +ボタンが ON の場合は青色に表示されます。
- ⑤ **GAIN ボタン** : パラメトリック EQ やシェルピング EQ のゲインを調整するためのボタンです。このボタンにタッチしたあとに各ポイントにタッチしてそのまま上下に動かすことでゲインを調整できます。ボタンの下にある数値にタッチすることで、キーボードで数値を入力することもできます。
- ⑥ **Q フェーダー** : パラメトリック EQ の帯域幅を調整するためのフェーダーです。各ポイントにタッチして、フェーダーを上下に動かすことで帯域幅を調整できます。フェーダーの下にある数値にタッチすることで、キーボードで数値を入力することもできます。
- ⑦ **FREQ ボタン** : パラメトリック EQ のカットオフ周波数を調整するためのボタンです。このボタンにタッチしたあとに各ポイントにタッチしてそのまま左右に動かすことでゲインを調整できます。ボタンの下にある数値にタッチすることで、キーボードで数値を入力することもできます。



## CONFIGURATION

この画面では、「設定内容の保存 / 呼び出し」「EQ + ボタンでスピーカーに保存する信号処理の選択」「ファームウェアのアップデート」を行います。



- ① **SAVE / LOAD PRESETS ボタン** : コントロール画面の「MAIN」や「EQ」で設定した信号処理の内容をユーザープリセットとして端末内に保存したり、呼び出したりするためのボタンです。同一端末に接続されている他のスピーカーの設定をコピーすることや、工場出荷時の状態に戻すこともできます。ボタンにタッチすると、プリセットの選択画面が表示されます。上から4つはユーザープリセットを保存・呼び出す場合に使用します。下の4つは同一端末に接続されている他のスピーカーの設定をコピーする場合に使用します。上から5つ目の [FACTORY PRESET] は、工場出荷時の状態に戻す場合に使用します。それぞれの操作方法の詳細は以下の通りです。

### ユーザープリセットの保存方法

1. 上から1～4番目の中で、保存したいプリセットを選択して左側のプリセット名にタッチして青色に表示させます。
2. プリセット名の右側にある [SAVE] にタッチすると、プリセット名を入力するためのキーボードが表示されるので、プリセット名を入力して [OK] にタッチします。
3. 「Preset stored successfully」と表示されるので [OK] にタッチすると保存が完了します。

### ユーザープリセットの呼び出し方法

1. 上から1～4番目の中で、呼び出したいプリセットを選択して左側のプリセット名にタッチして青色に表示させます。
2. プリセット名の右側にある [LOAD] にタッチすると、「Loading this preset will overwrite the speaker's current settings」と表示されるので [OK] にタッチします。
3. 「Preset loaded successfully」と表示されるので [OK] にタッチすると呼び出しが完了します。

### 同一端末に接続されている他のスピーカーの設定のコピー方法

1. 上から6～9番目の中で、設定をコピーしたいスピーカーを選択して左側のプリセット名にタッチして青色に表示させます。
2. プリセット名の右側にある [LOAD] にタッチすると、「Loading this preset will overwrite the speaker's current settings」と表示されるので [OK] にタッチします。
3. 「Preset loaded successfully」と表示されるので [OK] にタッチするとコピーが完了します。

### 工場出荷時の状態に戻す方法

1. 上から5番目の [FACTORY PRESET] にタッチして青色に表示させます。
2. プリセット名の右側にある [LOAD] にタッチすると、「Loading this preset will overwrite the speaker's current settings」と表示されるので [OK] にタッチします。
3. 「Preset loaded successfully」と表示されるので [OK] にタッチすると工場出荷時の状態に戻ります。



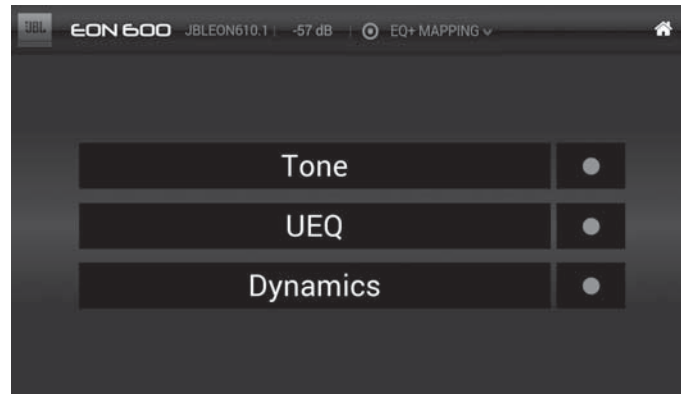
プリセットの選択画面

- ② **EQ + MAPPING ボタン** : EQ +ボタンでどの信号処理を ON/OFF するかを選択するためのボタンです。ON にしたい項目のボタンにタッチして、右側の○を青色に表示させてください。各ボタンで ON/OFF できる項目は以下の通りです。

**Tone** : 高域 / 低域のシェルビング EQ の設定を ON/OFF します。EON818S では無効です。

**UEQ** : 3 バンド・パラメトリック EQ の設定を ON/OFF します。

**Dynamics** : VOLUME フェーダーの設定を ON/OFF します。



EQ +ボタンで ON/OFF する信号処理の選択画面

- ③ **FIRMWARE UPDATE ボタン** : 本機のファームウェアをアップデートするためのボタンです。ファームウェアのアップデート方法については P.16 の「ファームウェアのアップデート」を参照してください。

## 本機との接続

1. 端末の Bluetooth 機能を有効にします。
2. 本機の電源を入れ BLUETOOTH SYNC ボタンを ON にします。
3. 端末の「EON Connect」を起動します。
4. 「EON Connect」のホーム画面にある+ボタンにタッチします。
5. [Scan] にタッチして周囲のスピーカーを検索します。接続可能なスピーカーの情報が画面にリストアップされるので、希望のスピーカーにタッチします。
6. 「EON speaker successfully added to network」と表示されるので [Ok] にタッチすると接続が完了します。

### 備考

- ・ 接続可能なスピーカーの情報が表示されない場合は、本機をリセットして再度接続を試みてください。本機のリセット方法については P.17 の「工場出荷時の状態へのリセット」を参照してください。
- ・ 再起動しても表示されない場合は、他の Bluetooth を利用した機器や同じ 2.4GHz 帯を利用した WiFi 機器の発する電波が干渉している可能性があります。他の機器の通信機能を OFF にして再度接続を試みてください。



## ファームウェアのアップデート

本機のファームウェアは、「EON Connect」を使用して端末からインターネット経由でアップデートできます。アップデートの方法は以下の通りです。



- ・ アップデートは、端末がインターネットに安定して接続されている状態で行ってください。アップデート中に接続が切断されると、正常にアップデートが完了できない可能性があります。
- ・ アップデートは、端末とスピーカーが安定して Bluetooth 接続されている状態で行ってください。アップデート中に接続が切断されると、正常にアップデートが完了できない可能性があります。画面の「RSSI」の値は、端末とスピーカーとの Bluetooth 接続の強度を表しています。アップデート中にこの値が -80dB を下回らないようにしてください。

1. 端末がインターネットに安定して接続されているか確認します。
2. 端末とスピーカーを Bluetooth で接続します。
3. コントロール画面の「CONFIGURATION」にある FIRMWARE UPDATE ボタンにタッチします。
4. FIRMWARE UPDATE 画面の Update Firmware ボタンにタッチすると、ファームウェアのアップデート画面に進みます。「Installed Firmware」に接続しているスピーカーのバージョン、「Upgrading to」に最新ファームウェアのバージョンが表示されます。「Installed Firmware」の数字が「Upgrading to」の数字よりも小さい場合は、ファームウェアが更新されています。
5. ファームウェアをアップデートする場合は、端末をスピーカーに十分に近付けてから Start (Android の場合は Update) ボタンにタッチしてください。
6. 「The speaker's firmware is up to date. Do you really want to continue?」と表示されるので [Yes] にタッチしてください。ファームウェアのアップデートが始まります。アップデートの状況は下部のバーに表示されます。
7. アップデートが完了すると「Update was successful!」と表示されるので [OK] にタッチしてスピーカーの電源を OFF にします。
8. 電源を OFF にしてから 20 秒待って、再び電源を ON にしてください。アップデートが完了します。



ファームウェアのアップデート画面

## 工場出荷時の状態へのリセット

---

本機に動作上の不具合が発生した場合や、BLUETOOTH LED が点灯しているにも関わらず端末にインストールされた「EON Connect」が本機を認識しない場合は、工場出荷時の状態へのリセットを実行してください。リセットの方法は以下の通りです。

1. 電源スイッチを OFF にします。
2. EQ +ボタンと BLUETOOTH BOOT ボタンを同時に押しながら、電源スイッチを ON にします。
3. 最初に BLUETOOTH LED が素早く点滅し、次に SIGNAL LED と LIMIT LED 以外の LED がゆっくりと 5 回点滅します。5 回目の点滅が終わったら、EQ +ボタンと BLUETOOTH BOOT ボタンを離してください。その後、通常通り起動してリセットが完了します。

**備考** ・工場出荷時の状態へのリセットを行うと、本機の内蔵メモリーに保存されている「EON Connect」で設定した信号処理の値は全て消去されます。

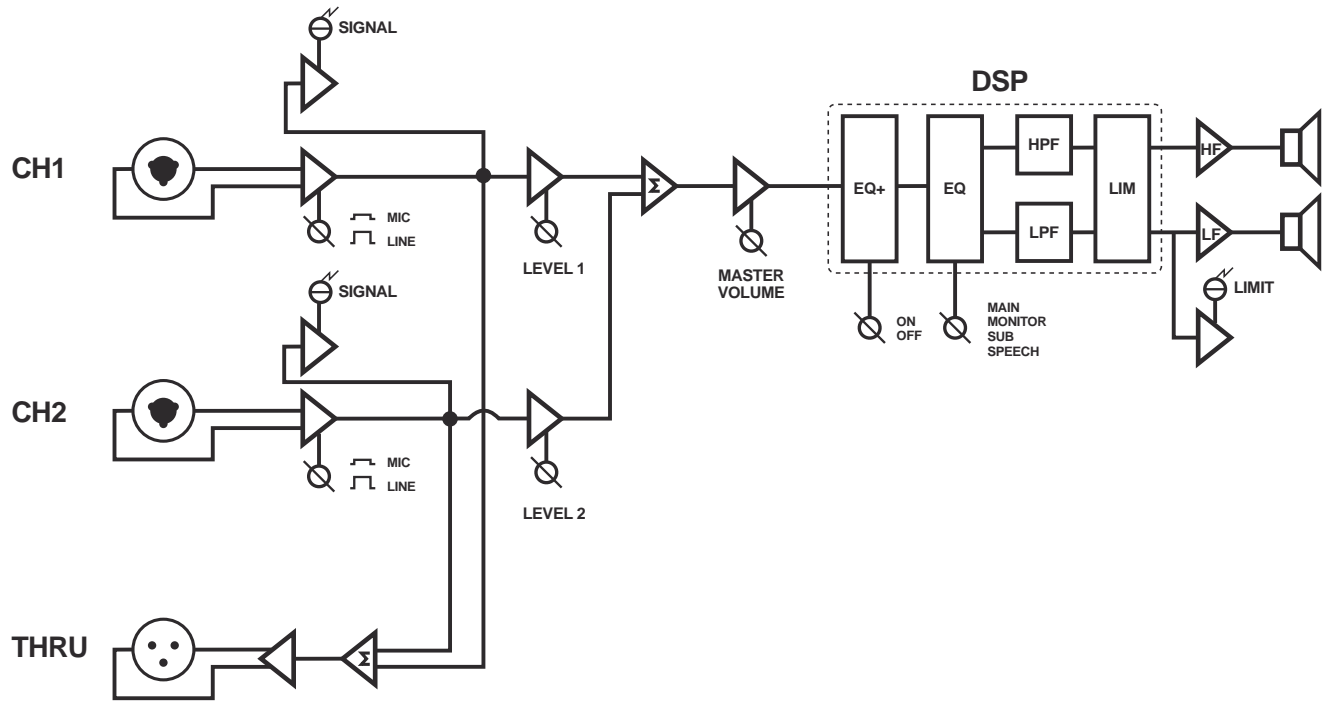
## トラブルシューティング

以下は、通常発生する可能性のあるトラブルの症状とその対策です。解決できない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

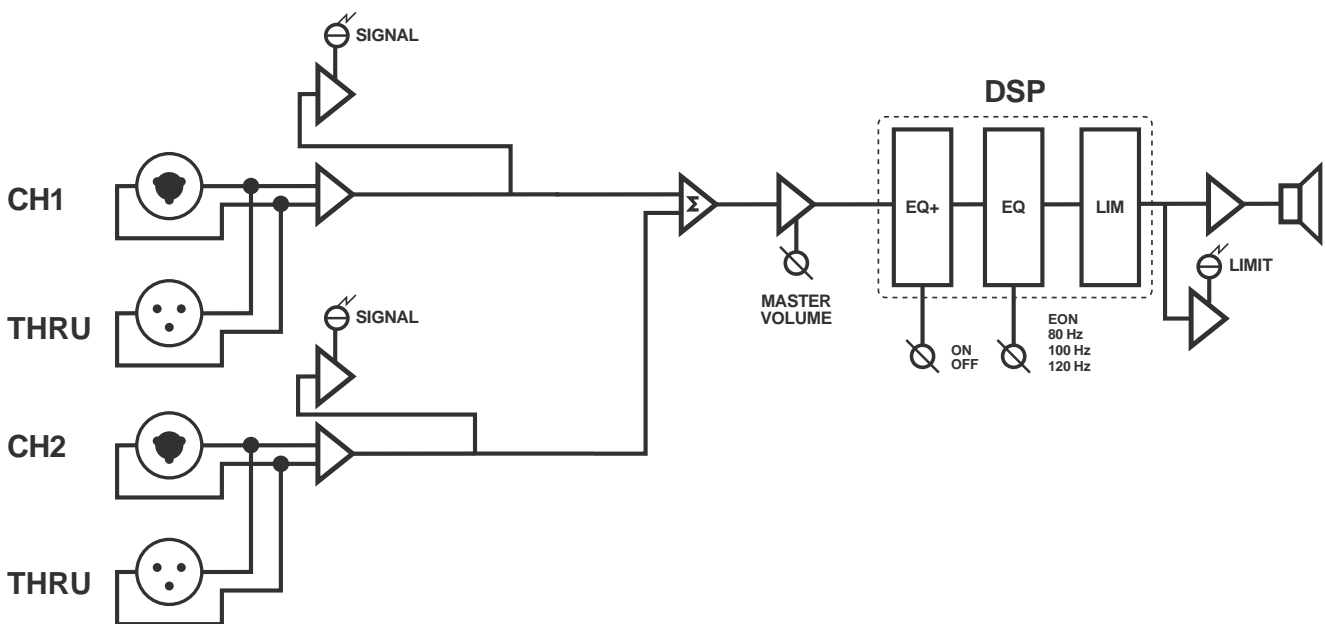
症状	原因	解決方法
電源が ON にならない (POWER LED が点灯しない)	コンセントから電気が供給されていない	電源コードが正しく接続されているか確認します。
	電源スイッチが入っていない	電源スイッチが ON になっているか確認します。
	電源コードに不具合がある	正常な電源コードに交換します。
	コンセントの電圧が 100V 以下になっている	コンセントの電圧が 100V になっているか確認します。
	電源電圧スイッチが 230V になっている	電源電圧スイッチを 115V に設定します。
電源を ON にしても音が出ない 音は出ているが非常に小さい	入力信号のレベルが低過ぎる	音源となる機器の出力レベルを上げます。
	GAIN つまみ や MASTER VOLUME つまみの設定が低過ぎる	GAIN つまみや MASTER VOLUME つまみの設定を上げます。
	機器の接続方法が間違っている	接続方法を確認します。
	接続ケーブルに不具合がある	正常なケーブルに交換します。
	MIC/LINE ボタンの設定が間違っている (EON610、EON612、EON615 のみ)	マイクロホンを接続している入力端子の MIC/LINE ボタンを MIC に設定します。
コンデンサー型マイクロホンを使用している	本機にファンタム電源の供給機能はありません。以下のいずれかを使用してください。 ・ダイナミック型マイクロホン ・電池駆動に対応したコンデンサー型マイクロホン ・コンデンサー型マイクロホンと外部ファンタム電源装置	
音が歪む	入力信号のレベルが高過ぎる	音源となる機器の出力レベルを下げます。
	GAIN つまみ や MASTER VOLUME つまみの設定が高過ぎる	GAIN つまみや MASTER VOLUME つまみの設定を下げます。
	MIC/LINE ボタンの設定が間違っている (EON610、EON612、EON615 のみ)	ラインレベルの機器を接続している入力端子の MIC/LINE ボタンを LINE に設定します。
ノイズが発生する	MIC/LINE ボタンの設定が間違っている (EON610、EON612、EON615 のみ)	ラインレベルの機器を接続している入力端子の MIC/LINE ボタンを LINE に設定します。
	接続ケーブルに不具合がある	正常なケーブルに交換します。
	アース接続をしていない	アース接続をします。
	音声ケーブルが電源コードや照明ケーブルに近過ぎる	音声ケーブルを電源コードや照明ケーブルから離します。
アンバランス・ケーブルが長すぎる	接続機器にバランス出力が装備されている場合は、バランス出力を使用します。バランス出力がない場合は、ダイレクト・ボックス (DI) を使い、アンバランス出力をバランス出力に変換します。アンバランス・ケーブルを使用する場合は、長さを 3m 以内にしてください。	
音量が十分に上がらない / 下がらない 意図しない音質になっている	内蔵メモリーに保存されている「EON Connect」の信号処理の設定が有効になっている	EQ + ボタンが ON になっている場合は OFF にしてください。それでも改善されない場合は、「EON Connect」の EQ + MAPPING ボタンで設定を行っていない可能性があります。EQ + MAPPING ボタンで設定を行っていない場合は、本機だけで「EON Connect」の信号処理の設定を無効にできません。「EON Connect」を接続して設定を無効にするか、工場出荷時の状態へのリセットを行ってください。
EQ PRESETS ボタンが動作しない (EON610、EON612、EON615 のみ)	EQ PRESETS ボタンの動作不良	EQ PRESETS ボタン上の LED が点灯または消灯する前に EQ + ボタンを離すと、EQ PRESETS ボタンが動作しなくなります。その場合は、ボタン上の LED が点灯または消灯するまで再度 EQ + ボタンを押し続けてください。EQ PRESETS ボタンが復旧します。

# ブロックダイアグラム

## EON610, EON612, EON615



## EON618S



# 仕様

		EON610	EON612	EON615
形式		2-Way パワード・フルレンジ		
周波数レンジ (-10dB)		52Hz ~ 20kHz	48Hz ~ 20kHz	39Hz ~ 20kHz
指向角度 (水平×垂直)		110° × 60°	100° × 60°	90° × 60°
最大音圧レベル		124dB SPL	126dB SPL	127dB SPL
ドライバー構成	LF	610H (10 インチ (254mm))	612H (12 インチ (305mm))	615H (15 インチ (381mm))
	HF	2414H-1(1 インチ (25mm))		
クロスオーバー周波数		1.8kHz		
パワーアンプ		LF : 700W + HF : 300W, Class D		
入力	チャンネル数	2		
	端子・形式	XLR と標準フォーンジャック (3P) 対応の複合型端子 × 2		
	インピーダンス	20k Ω (バランス)		
インジケータ		EQ Preset, EQ+, Limit, Signal, Bluetooth, Power (前面、背面)		
電源		AC100V, 50/60Hz		
消費電力 (1/8 出力時、ピンクノイズ)		55W		
エンクロージャー		ポリプロピレン製、黒		
寸法 (W×H×D)		322 × 557 × 295mm (除突起部)	378 × 660 × 320mm (除突起部)	439 × 708 × 365mm (除突起部)
質量		11kg	14kg	18kg
付属品		電源コード、和文取扱説明書		

		EON618S
形式		パワード・サブウーファー
周波数レンジ (-10dB)		31 ~ 150Hz
最大音圧レベル		134dB SPL
ドライバー構成		618H (18 インチ (460mm))
クロスオーバー		80/100/120Hz (スイッチ切替)
パワーアンプ		1,000W (ピーク)
入力	チャンネル数	2
	端子・形式	XLR (3P) と標準フォーン (3P) 対応の複合型端子
	インピーダンス	22k Ω (バランス)
インジケータ		POLARITY, EQ+, Limit, Signal, Bluetooth, Power (前面、背面)
電源		100V, 50/60Hz
エンクロージャー		合板、Duraflex 仕上げ、黒
寸法 (W×H×D)		666 × 573 × 645mm (除突起部)
質量		36kg
付属品		電源ケーブル、和文取扱説明書

この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、その会社の登録商標または商標です。

# HIBINO

http://www.hibino.co.jp/  
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部  
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12  
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111  
札幌オフィス  
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三條1-1-20  
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪branch  
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8  
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891  
名古屋オフィス  
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26  
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡branch  
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6  
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509